

開 講 学 科		基礎教育センター				前橋工科大学 シラバス			
科 目 名	英語B	標準対象年次	選択／必修		科目コード				
		1 年次	選択必修		11002101 / 11002102 11002104 / 11002105 / 11002107				
担当教員	原島 秀人	単位数	学 期		曜 日	時 限			
		2 単位	前期 後期		月曜日 月曜日 金曜日	1,2 時限 2 時限 1,2 時限			
授 業 の 教 育 目的・目標		広汎な知識体系への関心を喚起し、幅広い教養と豊かな人間性の涵養を図るとともに、工学の専門教育に必要な基礎的学力、思考力ならびに表現力などを修得させる。							
学科の学習・教育 目標との関係		外国語学習を通して異文化理解とコミュニケーション能力の伸長を図る。							
キーワード		CALL, インターネット, 情報処理, e-Learning							
授業の概要		コンピュータやインターネットを活用し、英語情報処理能力を養成する。CALL 教室において、オンライン教材を用いた e ラーニングと対面授業を混合した形のブレンディッドラーニングを指導する。主にリスニングとライティングスキルの養成に主眼を置きながら、全体的な情報発信能力, コミュニケーション能力の発達を目指す。(CALL)							
授業の計画		第 1 回 :	選抜および授業説明						
		第 2 回 :	パソコン及びウィンドウズ操作説明 タイプ練習・簡単なリスニングと Net-surfing の方法						
		第 3 回 :	作文練習・Moodle 解説						
		第 4 回 :	Moodle のアカウント作成、Moodle 使用開始、Quiz に挑戦						
		第 5 回 :	コンピュータ調査						
		第 6 回 :	自己紹介文を書く						
		第 7 回 :	リスニングクイズ 1						
		第 8 回 :	リスニングクイズ 2						
		第 9 回 :	文法の基礎						
		第 10 回 :	パラグラフライティング 1						
		第 11 回 :	パラグラフライティング 2						
		第 12 回 :	リスニングクイズ 3						
		第 13 回 :	リサーチプロジェクト 1						
		第 14 回 :	リサーチプロジェクト 2						
		第 15 回 :	まとめ						
受講条件・関連 科目		特になし。但し、履修希望者が多い場合は最初の授業で 選抜テスト をし、人数制限を行う。例年多くの受講者が集まるので、初回を欠席すると受講チャンスは低くなる。							
授業方法		E-ラーニングシステムとオンライン教材を利用し、リスニングを行いながら、合わせて英語ライティングの基礎的な力を養って行く。またネット情報検索の効果的な実践を学び、E-Learning のための環境－Moodle－を使ってオンライン学習を実践して行く。Moodle はどこからでもアクセス可能なので、いつでも学習可能である。学生は必ず E-メールアカウントを取得し、 https://harahara.net/moodle にアクセスして本講義のコース登録をしてもらう。コース受講に必要なキー（パスワード）は後に伝える。							
テキスト・参考書		特に指定しない。教材はネット上に在る。							
成績評価		・試験（ %）・レポート（ %） ・その他 課題（100%）							

履修上の注意	@USB メモリースティックを持参すること。 @提出文書は Forum に投稿するか、プリントアウトしたものを提出する。「一段落」という場合、100 語くらいを標準と考えてもらえばよい。何回か書き換えを求められることもあるだろうが、すぐに書き換えられるのがワープロの良いところ。面倒がらずに頑張ってください。 @提出する英語文書は基本的に<u>スペルチェック（文書校正）をかけてスペリングの間違いが存在しない様</u>にしておくこと。 @時間内で書き終わらなかったり、聴き終わらなかったりすることもあるかと思われるが、その場合には空き時間を利用して必ず完成させておくように。期末まで未消化分を残しておくとう期末試験とぶつかり大変な思いをすることとなるので、早めに仕上げることを心がけよう。 @各学科で催される情報倫理講習会に出席してテストに合格しないとアカウントがもらえない。すなわちコンピュータが使えない。自己責任で必ず合格していないと授業に支障をきたすので要注意。またタイピングを自分で練習しないで課題のスピードが速すぎると泣き言を言う者も自覚が足りないと認識すべきである。 @3 週目くらいから Moodle にアカウントを作ってログインしていきますが、その時点で E メールアカウントが無いと Moodle アカウントが作れない。学生は携帯メールではなく、大学配布の E メールアカウントを必ず 1, 2 週間のうちに持つておくこと。かつ、学習の指示が E メールを通じて Moodle から各自に自動配信されるので、学生はできるだけ毎日自分のメールをチェックする習慣を付け、指示を確認するように。 @著作権に関する法律も厳しくなって来た昨今、他人の文章をそのままそっくり（あるいは部分的に）コピーしてあたかも自分が作った文章であるかのごときに見せることは「犯罪」となりえる。また自動翻訳ソフトを使って機械に作らせた英文を提出することも道義にもとる。もしこの様なことが発覚した場合には単位を取り消す場合があるので十分注意するように。これらに関しては後で誓約書を出してもらう。
--------	--